

# 令和5年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 6 年 4 月 25 日

団体所在地 広島県廿日市市対巖山 2-9-13

団体の名称 学校法人有朋学園

職・氏名 理事長 中丸 元良

(施設名 かえで幼稚園)

## 1 活動報告

### 【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・たけのことり
- ・ソラマメ、たまねぎの栽培、収穫、調理
- ・梅の実を用いたうめシロップ、ジュース、ジャムづくり
- ・森の探索
- ・自然観察会
- ・稲作（代掻きや田植えなど）

### 【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・ポップコーンの栽培
- ・さつま芋の収穫
- ・七夕に用いる竹の調達
- ・川遊び
- ・ぐみのみの収穫
- ・園になったブドウの収穫

### 【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・お米の収穫
- ・木のみを用いた制作物作り
- ・サツマイモを用いた焼き芋づくり
- ・収穫した栗を用いた栗ご飯作り
- ・森の探索

### 【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・森の探索
- ・つるを用いたかごづくり
- ・思惟の実集め
- ・氷づくり

## 活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

### 【4月～6月】

(写真)



(エピソード記述)

数本、たけのこを収穫することができたので、調理の下準備としてたけのこの皮むきを行った。

もくもくと皮をむくことを楽しむ子どもの傍らで、ある子どもが、剥かれたたけのこの皮を積み重ねはじめた。それをみた周りの子どもや保育者も面白くなったのか、積み上げ遊びに加わっていった。そうして、子どもの身長ほどの高さのタワーが完成した。たけのこの皮ではじめに遊び始めた子どもは、大きな紙袋にたけのこの皮をいっぱいにしきつめ、自宅へと持ち帰っていった。

子どもはたけのこの性質、つまり、類似した大きさ、形の皮が何層もかさなっているということを感じていた。また、それを組み合わせて遊ぶという想像力を、たけのこの皮が引き出したとも思われる。

### 【7月～9月】

(写真)



(エピソード記述)

年長A組では、ポップコーンを栽培していた。順調に大きくなり、実もつき始めていたある日、日課のように水やりをしていた子どもたちが、ポップコーンの実が食べられていることに気がついた。保育者がこのことをクラス活動でとりあげると、かかしをつくったらよいという声が上がった。そこで、子どもたちは森で竹を調達し、様々な材料を組み合わせながらかかしを作成した。この作業は、一部の工程をのぞいて子どもたちによるものだった。また、ポップコーンの実を食べに来たカラスを捕まえるためのわなをしかけた子どももいた。食べることという、生活に根差したポップコーンへの興味が愛着となり、自分なりにどう対策すればよいのか考えようとする子どもの姿勢を引き出していた。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

5月ごろから園庭の田んぼで育てていた稲を、10月に収穫した。子どもたちはひとりひとり鎌をつかい、力を籠めながら稲を切り崩していく感覚を味わいながら、収穫を楽しんでいた。

収穫した稲をはさがけすると、子どもたちがその下に潜り込んできた。その日は暑い日差しが差し込んでいたこともあり、はさがけした稲は、子どもたちにとっての東屋のようにになっていたのだろう。

また、保育者のすすめにより、ある子どもは収穫して残った、稲の切断面を足で踏みつぶしていた。ぐしゃっとなる感覚がやみつきになったようで、しばらくその遊びを繰り返していた。

育てる、食べることだけが子どもたちにとっての稲作の意味ではないのだろう。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

大雪がふったある日、保育者は子どもたちを誘って森へと出かけた。いつもなら木々に囲まれた道を走りぬけていく子どもたちだったが、この日はまわりをきょろきょろと見渡しながらか、ゆっくりと森を歩いて行った。雪化粧をほどこした森が、いつもとちがうということを感じずにはいられなかったのだろう。

B子は、普段は比較のおとなしい子どもであったが、冬の森で、時に雪に足を滑らせながら遊ぶうちに、体の動かし方が次第にダイナミックになり、いつもはかかわらない子どもに声をかけたり、うずく心を表現するように大声を発するようになった。森とは多様に体を動かす場所であり、体のダイナミズムにつられて、心もほぐれていくのだろう。

## 2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について
  - (例) こども環境管理士を担当保育士が取得（12月）
  - ロープワークに関する研修を保育者が受講（4月）
  - 他のもりの幼稚園の視察（8月）
  - 自然物を用いたあそびの研修を保育者が受講（12月）
  - 自然体験活動アドバイザーの菊間馨氏による、自然物とのかかわり方に関する研修（年10回程度）
- ・ 地域との関わりについて
  - (例) 専門知識のある地域の方に園庭のぶどうの木の選定や野菜づくりを月一回交流（毎月）
- ・ 保護者との関わりについて
  - (例) 果物や野菜を保護者と一緒に収穫（毎月）
  - 保護者とかえでの森を探索（7月）
  - かえでっこくらぶで森を探索
- ・ その他
  - 保育者と森とのかかわり方、子どもとの森とのかかわり方などについて、園内で研究チームを発足した。研究の成果は、令和6年8月に東京で行われる、幼児教育実践学会でポスターを用いて報告する予定である。

\*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	
-----	--